



地域の足、アルピコ交通の新車両が運行間近です。一方で昨年不通となった田川橋梁の工事も進んでいます。

■新車両導入される

昨年末アルピコ交通新村車両区へ、現在の3000形に替わる新車両20100形が運び込まれました。この車両は点検やラッピングなどが必要なため、約2ヶ月を掛けて改造をしてきましたが、このほど改造が終わり、2月中旬から点検や試運転などを実施しています。

地域の足

上高地線新車両お目見え

■現在の3000形は
現在の車両は、平成12年
(2000)から運行されて
いました。

外装に工夫を凝らし、鉄道マスコットの渾身の姿や昭和40年代の運行車両の復刻版などのラッピングをしたものなどが運行されています。順次、新車両に入れ替えられる予定です。

■えんがわ電車
地域の公共交通を考えるを
スローガンに活動している
「上高地線応援隊（旧称：古

しい語らい
の会」は、
平成12年
(2000)
まで運行さ
れていた、
5000形
(カエル電

車）をアルピコ交通と交渉して、令和元年（2019）まで借り受け活動し、電車なきあとも活動を続けています。

現在この車両は愛好家に

■ 課題・田川橋梁

昨年、大雨で、渚駅と西松本の間の田川に掛かっている田川橋梁が傾き、この間の電車の運行ができなくなっていました。代行のバスにて運行しています。また、現在架け替え工事が緊急で行われています。

■これからも

新車両を導入し、かねてからの課題であった田川橋梁の架け替えを行い生まれ変わる上高地線は、これからも地域の公共交通として走り続けてほしいと思います。



新村の人口・世帯数
 令和4年3月1日現在
 世帯数 1,319戸
 男 1,524人
 女 1,643人
 合 計 3,167人

地域学習
テキスト完成

新村の魅力を地域内外の人たちに知ってもらうため、昨年4月に「地域学習テキスト編集委員会」が立ち上がり、今年の3月に「地域学習テキスト あたらしの郷」が完成しました。

36頁フルカラーで、写真を多く使い、分かり易い言葉で地区の歴史や自然、文化財などを紹介しています。完成に至るまでに委員を中心に原稿を執筆し、10数回会議や打ち合せを重ね、編集を行いました。

地区住民には全戸配布したほか、芝沢小学校や高綱中学校にも寄贈し、授業などで活用してもらう予定です。新村公民館で無料で配布していますので、ぜひ手に取って、新村の魅力を見つけてください。



八束穂

今年の1月より市民タイムスの紙面において月3〜4回のペースで掲載スタートした企画がある。「おらほのことば」松本平方言辞典

がそれである▼信州大学名誉教授の沖裕子先生が、言葉の持つ意味や解説、会話例での説明など詳しく載せていて大変興味深く見では楽しんでゐる▼これまでに紹介されたものは「おらほ・しみる・しずむ・おな・かみゆき」などがある。どれも馴染みのあるものだ。会話例をごく自然に違和感なく読んでゐる自分が不思議だった▼方言とは一般的には共通語や標準語とは異なった形で一地方だけで使われる語を指すようだ▼小さい頃から聞いて覚え、慣れ親しんできた言葉が方言だったと気づいたとしても気にすることはない。スマートな標準語も悪くはないが味わい深くなぜか会話をはずませる不思議な力が方言にはあるからだ。「これからも方言を大事にして、どんどん使っていきましょう。」
「そうだね。」

シリーズ 新村七不思議③

◎新村の上空を飛ぶ飛行機って多くない？

信州まつもと空港の北側に位置する新村では、離着陸する飛行機を比較的近くに見ることが出来ます。着陸時は300メートル以下で上空を通過するのでなかなかの迫力ですね。飛行機は向かい風で揚力が大きくなるので、離着陸とも風に向かって飛ぶのが基本です。つまり新村上空を通過するのは南風の着陸時と北風の離陸時となります。しかし実際は離着陸とも北側がかなり多いです。北側から着陸した飛行機がしばらくすると、また北側に向けて離陸して行くのも珍しくありません。なぜでしょうか。

空港は松本盆地の南側にあり、新村方面の北側がいちばん開けています。ジェット機は3・3・5度の緩やかな降下角度で着陸するので、その距離が長くて真っ直ぐなほどより安全なのです。離陸時も南側は山へ向かうので一気に上昇する必要があります。こちらが北向きの方が、都合が良いのです。また2000メートルある滑走路の両端で15メートルほど高低差があります。

南側に向かって上り坂になっているので、着陸時には減速しやすく離陸時には加速しやすくなります。もちろん安全が最優先なので、これ以外に天候や使用機材など考え得る全ての条件を総合的に判断します。最近GPSを利用したRNP-ARという進入方式が導入され、以前より悪条件でも着陸することができるようになり、南側からの着陸回数も増えてきました。しかしそれらを考慮した上でも、新村側での離着陸がより安全であると判断される場合が多いのです。

少し専門的な話になりますが、空港への進入ルートは複数あり、それぞれFIXと呼ばれる決められたポイントを通過するよう定められています。公民館の上空か、やや東側を通る時と、農村ひろば方面から松本大学上空を通過する場合があるのはこの着陸方式の違いです。福岡や神戸など南方面から飛来する定期便は、最初に城山方面へ向かい、明科周辺でUターンして滑走路へ向かう場合が多いですね。松本空港を利用する際には、こんなことを考えながら窓の外を眺めるのも楽しいかもしれませんよ。

シリーズ 私たちの先生

松本大学
地域づくり考房
『ゆめ』専門員
倉田 吉春 先生

「汽車の窓からハンカチをふれば」の曲は、教員1年目に同僚から学びました。ハンカチ持つて腰振る踊りは、まさに、衝撃でした。高校教員として38年間、大勢の人との出会い、多くのことを学んできました。そこにはユーモアと人間味をいつも意識しての学習があつたように思います。授業でも部活動でも知らず知らずに「楽しく学べること」「感動を与えること」「何事も

真剣にやること」まさに高原列車の踊りのごとく学び、それを子どもたちに教えてきたように思います。

今年度より松本大学でお世話になって、「ひといき」の活動を通じ、大勢の皆様と出会いました。住民の皆様の笑顔と会話、美味なるコーヒーとサービス。学生にとって学ぶ「キャンパス」がここにはありました。

学生は「気付き」と「気遣い」を学び、回数を重ねるごとに成長していきます。こんな場面に会えて感謝の気持ちで一杯です。新村と大学の皆様が好きになりそうです。

お世話になりました



松本大学 総合経営学部
観光ホスピタリティ学科
4年 千野 泰聖さん

2年間新村公民館報編集委員を務めさせていただき、これまで知らなかった新村の姿をたくさん知ることができました。

私は千曲市の出身ですが、松本大学に進学するまで地域活動に自ら進んで参加する機会はありませんでした。しかし、新村地区の地域活動に参加するなかで、出会い住民の方々はいきいきとしている印象を受けました。

新村地区の皆さんは地域活動で他の参加者と認め合つて活動をしていることが多いのではないかと感じました。具体的には活動が終わった際「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたり、「またよろしくね」と

次の活動への声かけをする姿がありました。それは住民の皆さんで活動の内容だけでなく、お互いの関係を楽しむことができているからではないかと感じました。

大学を卒業し、4年間生活した新村を離れることになりました。私も新村の皆さんのように他の地域住民の人たちとの関係を楽しみながら生活していけるように、皆さんから学んだことをいかしていきたいと思えます。とても楽しかったです。ありがとうございました。



茶房「ひといき」での1コマ（ご本人は写真左端）